水産海洋学会地域研究集会

第12回東北太平洋岸の水産業と海洋研究集会

漁獲物の変化に利用・加工が挑む

2025年

10月6日（月）

13:00～17:30

現地会場

塩竈市魚市場
2F大会議室

（宮城県塩竈市新浜町1-13-1）

参加無料!
現地またはオンライン（TEAMS）

申し込みは二次元バーコードよりお願いします
オンライン申し込み〆切：9月26日（金）
なお、現地会場は当日参加も可能です

プログラム

挨拶：伊藤進一（一般社団法人水産海洋学会会長）
佐藤光樹　（塩竈市長）
趣旨説明：永木利幸（宮城県仙台地方振興事務所）

（1）東北海域における漁獲物の変化
筧　茂穂（水産機構資源研）

（2）テナガダラの利活用について
上田智広（岩手水技セ）

（3）さめ類の有効利活用について
西川正純（宮城大）

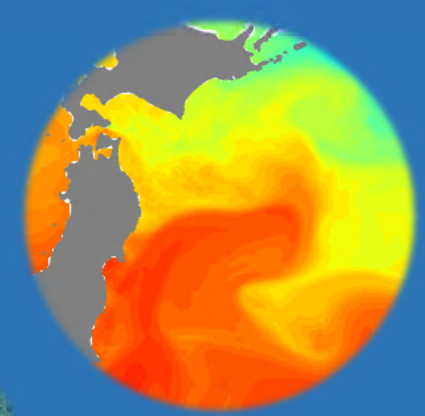
（4）ノリの食害対策のためのクロダイ利用を目指した食味特性の把握
橋本加奈子（水産機構技術研）・伊藤友洋（千葉水研セ）

（5）暖水性魚種、低・未利用魚種の活用に向けた取組み
菅原幹太（宮城水技セ）

（6）暖水性魚種（チダイ，アカムツ）の商品開発　～石巻金華シリーズ～
平塚隆一郎（山徳平塚水産）

（7）未利用魚の魅力を伝える取組み
松並理恵（マルサン松並商店）

（8）総合討論
進行：西川正純（宮城大）・永木利幸（宮城県仙台地方振興事務所）・鈴木貢治（宮城水技セ）



開催趣旨

海洋環境の変化により、漁獲される魚種が変化してきており、なじみがない、値段がつかないなどの理由で利用されていない魚の漁獲も増えてきている。そのような低利用魚・未利用魚の利用・加工にチャレンジしてきた方から成功事例について紹介していただき、効率的な漁獲・流通・加工の提案、消費の拡大や新たなチャレンジにつなげるきっかけとしたい。

共催：宮城県、公立大学法人宮城大学、国立研究開発法人水産研究・教育機構　水産資源研究所
後援：塩竈市、宮城県漁業協同組合、みなと塩釜魚市場株式会社、協同組合塩釜水産物仲卸市場、株式会社仙台水産、仙都魚類株式会社、塩釜商工会議所など、塩釜市周辺の水産関係組合・団体・関係機関など全18機関
詳細はhttps://www.jsfo.jp/sympo/pdf/2025/s251006.pdfをご確認ください.